

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 福翠会
施設名	第二いちご保育園
報告者（役職）	高野真智子（園長）
住所・連絡先	東京都世田谷区南烏山 2 - 3 3 - 3
	☎ 03-5969-1500 E-mail dai2ichigo@giga.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

くぬぎの木であそぼう

○主な助成備品

くぬぎの木（2本） ロープネット

1. 保育計画策定の目的

第二いちご保育園は、平成 28 年に開園いたしました。保育所保育指針を基に子どもが自ら関わる環境を作り、「選択制保育」「異年齢保育」「ゾーン保育」「チーム保育」を通して「子どもの主体性を育てる保育」を行っています。また、現在の子供達の様子を見て、開園当初から以下の取り組みをしてきました。

- ①全面砂場の乳児用園庭…幼児と一緒にどろんこ遊び、でこぼこ環境を歩く事での体幹バランスを育む遊び
- ②屋上園庭…バランスボードでのサーキット、カート遊び等で全身を使った遊び
- ③隣の公園での遊び…ブランコや滑り台等固定遊具での全身を使った遊び
- ④室内のぶら下がり遊具の使用…ロープやネット、木製滑り台による足の指や腕の力の発達を促す遊び

これらの遊びを通して、乳児から「体幹を育てる」為の遊びを計画・実践しています。さらに、幼児クラスは、室内用の上履きとして「ぞうり」を使用し、お相撲遊びや雑巾がけなど特別な時間を設けるのではなく、日常の生活や遊びの中での育ちを大切にしています。

そうした環境の中、全面砂場の乳児用園庭では、タイヤなどを使いながら築山を作ったり、地面を掘ったり発達に合わせて工夫し、環境を作り遊んでいましたが、「ここに木があったら、もっと子どもの遊びが広がるだろう」「どんぐりの木だったら、その実や葉で遊びが深まるだろう」という意見が保育者や子ども達からあがってきました。

そこで、どんぐりの木を植えるなら、一般的に多く目にする「マテバシイ」ではなく、形の珍しい「くぬぎ」の木を植えれば、在園児だけではなく、近隣の子ども達にも触れてもらう事ができるので良いのではないかと考えました。

実際には、どんぐりの実がなるまでには2から3年かかるという事なので、まずは、ロープネットで体幹を整える遊びとして、よじ登ったり、揺られたりする遊びを充実させる計画を立てることにしました。

2. 具体的な実施内容

①くぬぎの木（2本）の植樹

造園業の方に来ていただき、4、5メートルのくぬぎの木を2本植樹してもらいました。まだ細い木の為、八掛けで支えるようにしてもらいました。

②くぬぎの木を繋いだロープネット

2本の木の八掛けの部分にネットロープをつけてもらいました。太めのナイロンロープで子どもが首を絞めるような危険のないように25センチ角で結び、ネット状になったものをつけてもらいました。

*25センチは、運動遊具を販売している企業に安全基準を確認

3. その成果と評価

- ①くぬぎの木…植樹後、今年度はまだ少量の「どんぐり」を収穫すると子ども達は皮を剥いてみたり、園庭でおまごと遊びに使用したりしていました。また、落ち葉では、子ども達がそれぞれに見立て遊びを行っていました。





②くぬぎの木を繋いだロープネット…まずは、2歳児がロープネットに登り、少し揺らしながら遊ぶ姿をみて、1歳児クラスが真似をし、年度の終わりには、0歳児も一番下の段によじ登る姿も見られました。



4. 今後の課題と展望

くぬぎの木は、植木職人の指示通り毎日の水やりを行っていた為、しっかりと根を張る事ができています。子ども達も水やりを手伝ったりすることで、木への親近感を持ち日々触れているので、まずは、枯らしたり病気にならないように育てていく事が第一の課題です。その上で、今後の課題・展望をあげると以下の3点があげられます。

①どんぐりを使った遊びの充実

- ・どんぐりのマラカス…空き容器にどんぐりを入れたマラカス作り（材料を用意する事で、子ども達が自ら発見し、いろいろな音の楽しさを見つけていく）
- ・どんぐりの煮染め…園にはかまどが2台あり、月に2回かまどの日があるので、それに合わせて、どんぐりを煮ながら染物を行う。（どんな色に染めるなど、年長を中心に実験を行う）
- ・どんぐりゲーム…どんぐりを使ったゲーム遊びを幼児で考え、集団で遊べるようなルールを考えてみる。
- ・どんぐりの飾り…どんぐりを使ったオブジェの制作 他

②その他、子ども達の感性を大切にし、どんぐりや他の素材を自由に合わせて、造形を楽しんでいけるような環境を作ったり、木工ゾーンで木工と合わせた制作を楽しんだりしていけるような環境を作りたいと計画しています。

③子育て支援として、地域の親子が月に一度来てくれているので、今年度同様に来年児の遊びを地域の子ども達とも一緒に楽しめるよう計画をしています。

更に来年度は、地域のご老人との交流も計画しているので、どんぐりを使った遊びを紹介してもらったり、子ども・保護者・職員・地域のご老人との世代間交流を行ったり、どんぐりの木からそれぞれのつながりができていく事を目指します。

以上